

特定非営利活動法人 YMCA コミュニティサポート

2016 年度事業報告

■ 概要

YMCA コミュニティサポートは、積み上げてきた実績と安定した運営の元、2016 年度も順調な運営を行いました。今年度の特徴的な報告事項は以下の通りです。

①サポートセンターの運営は順調

利用者はほぼ昨年並み。

②市の評価は高い

月ごとに公開される指定管理者としての評価は、概ね高い評価を得ている。

③事業の特徴

特に大きな新規企画はなかったが、過去数年間積み上げてきた新規プロジェクトを確実に継承し発展させてきた。

- ・新たな企画としては日本 NPO センターと連携し(株)電通の講師をお呼びして行った「伝えるコツセミナー」が好評であった。
- ・商工会議所との連携が強まり、商工会議所がかかわるいくつかの企画に参加したこと。
- ・地域課題である「子どもの貧困」への対応とハッピーのたろんプロジェクトの啓発事業として 県大教授の新保先生による講演会と関連団体の交流会を行った。

などがあげられる。

④次期指定管理に選考された。

⑤3 階移転の話は中止となった。

■ 事業別報告

事業はその性格と収入源のあり方から 3 本の柱に分けていました。テーマとしてはそれぞれに関わるため、各事業に重なり合う分もあります。

- 1.横須賀市立市民活動サポートセンターの指定管理者として指定管理料で事業をおこなう事業。
- 2.サポートセンターの使命に即した事業で指定管理者の財源で行う事業。
- 3.法人の使命に基づき独自の財源、また市や県、その他の民間団体からの委託、補助金、助成金等で行う事業。

1. サポートセンター管理運営事業

横須賀市の施設「横須賀市立市民活動サポートセンター」を指定管理者として運営しました。今年度は指定管理期間（2013.4～2017.3）の最終年度となりました。

サポートセンター条例等関係法令を遵守し、指定管理協定および指定管理業務仕様書に沿って誠実に施設管理運営しました。①～⑤は市との協定書に定められた業務内容です。

市からの評価として年間を通して「業務は全般にわたり、適正かつ誠実に良好な管理運営が行われている。」という評価をいただいています。

①施設管理業務

2016年度、サポートセンターの運営は健全に行われました。市との関係も良好であり概ね高い評価をいただきました。

②情報収集提供業務

情報は収集の努力なくして発信の質と量は高まらないと考えています。2016年度も多くの情報提供を呼びかけ、様々な方法で発信しました。

2015年度から続く神奈川新聞社からの依頼による「横須賀日日新聞」へのコラム掲載は約2年間続き2017年3月で終了しました。地域で活躍する市民団体やボランティアの事績を紹介し大きな広報効果を得ました。

◇2016年度実績

- ・館内配架（活動団体のチラシ等） 1010点
- ・みんなの掲示板（活動団体のポスター等） 303点
- ・何でもインフォメーション 66点
- ・活動紹介コーナー 19団体（年間229日）
- ・ラジオ出演（FMブルー湘南）コーディネート 40団体
- ・ネット情報発信 毎月5日（のたろん通信）
- ・発行物 のたろん通信 2,250部（毎月 A4表裏）
- 季刊誌のたろん 2,300部（年4回4ページ）
- 夏の体験イベント情報 3,000部（35団体紹介）
- ひくてあまたPイベント情報 5,000部（75企画紹介）
- のたろんフェアプログラム 5,500部（83団体紹介）
- ボランティア情報冊子 2,000部（71団体紹介）
- ・横須賀日日新聞 コラム執筆（毎月掲載）横須賀エリアに23,000部
- ・生涯現役デビュー（横須賀商工会議所 3万部）への協力

③相談業務

市民団体およびボランティアへの相談業務は、ロビーワークを中心にした初級レベルの相談対応

から、常勤職を中心にした中級、上級の相談、さらには専門的な領域期の相談などにも対応する体制をとってきました。

◇2016年度実績

相談件数

- ・窓口対応 148件
- ・起票分（スタッフ間でシェアした事案） 36件

※ただし相談を受けた者が他スタッフへのシェアとして記録した報告件数のため簡易な相談や高度な相談は数に入っていません。

相談種別

- ・簡易な相談 受付およびロビーワーク（全スタッフ）
 - ・中度＝運営上の相談等（囑託中心に対応）
 - ・高度な相談＝NPO法人の立上げ、法人の会計・財務・労務等（館長、館長補佐）
- ※高度な相談の事例（横須賀でのフードバンクシステム設立相談、助け合い組織と総合事業関連相談など）

外部連携による相談

- ・YPSとの共催でシーズから講師を招き制度会計、税務セミナーの開催

その他の相談

- ・市の他部署への問い合わせ、他施設への問い合わせ、観光案内等、サポートセンター業務以外の多くの問い合わせにも可能な限り丁寧に対応しました。

④連絡調整業務

市民活動そして地域の活性化は、地域のステークホルダー（多様な主体）が連携することが重要と考え、多くのネットワークに参加し、また自ら発案者となってネットワークを形成し連絡調整をしました。このネットワークから新しい企画が生まれてきました。

◇2016年度実績

- ・サポートセンター連絡会（指定管理者と市民生活課の連絡会 不定期開催）
- ・サポートセンター運営懇話会（年4回 市主催）
- ・中間支援組織情報交換会（ボランティアセンター、生涯学習センター、シルバー人材センター（毎月開催））
- ・生涯現役会議（市・健康づくり課、高齢福祉課、市民生活課、地域コミュニティ課、教育委員会、社会福祉協議会 民間4団体）年10回
- ・横須賀市商業観光課（市のイベントへの協力、ボランティア派遣等で連携）
- ・横須賀市観光協会（イベントへの協力、ボランティア派遣等で連携）
- ・横須賀市障害福祉課（イベントへの協力、ボランティア派遣等で連携）
- ・横須賀市児童相談所（児童養護施設支援、協働展示会の開催等で連携）

- ・横須賀市資源循環課（ボランティアによる清掃活動の共同開催等で連携）
- ・横須賀市社会福祉協議会（イベントへの協力、ボランティア派遣等での連携）
- ・神奈川県 NPO 協働推進課との協働（NPO 企業大学パートナーシップ推進事業他で連携）
- ・近隣支援センターとの連絡調整（逗子交流センター、三浦市市民協働課と連携）
- ・高齢者支援ネットワーク「介護予防・日常生活支援総合事業会議」委員 年4回
- ・県立保健福祉大学 名譽学長阿部氏、前学長山崎子氏、学部長金氏、石井教授、新保教授企画課、地域貢献研究センター、ボランティアセンターとの連携、講座2コマコーディネートや協働開催の企画多数
- ・関東学院大学 地域連携ボランティアセンターとの連携、ボランティア講座1コマをコーディネート、学生ボランティアサークル（CVC）との連携
- ・神奈川歯科大学 ジャカランダフェスティバル協力（2015年度より始まる）
- ・横浜市大学 ボランティア支援室との連携（2015年度より始まる）
- ・市の観光関係 市観光課、各行政センター（イベント協力、ボランティア派遣多数）
- ・企業系、社会人クラブ（商工会議所の新生・横須賀実践フォーラムへの協力）
- ・商店会（よこすかキッズフェスティバル等でボランティアコーディネート他）
- ・横須賀 YMCA との協力

⑤市民公益活動促進事業の実施

市民、市民団体がより公益的な活動を行い市民社会の柱となれるよう、テーマ別に以下の促進事業を行いました。

※テーマ別に、まとめたものですのでその他の報告と重複している部分もあります。ご了承ください。

■エンパワメント（人材育成事業）

市民社会で活躍できる人材を育成するため年代別、カテゴリー別に人々の力を引き出す事業を実施しました。

◇小学生～中学生

夏の市民活動ボランティア体験用の冊子を生涯学習センター、ボランティアセンターと共に作成し横須賀市の小中校に全校配布しました。

◇若者（高校生～）

若者の市民活動参加、社会参加を促すため大学などを中心に登録ボランティアを募集し、登録者にボランティア情報を発信しました。

- ・登録ボランティア制度（さぼサポ）
- ・大学 県立保健福祉大学、関東学院大学 他
- ・大学生を中心に登録学生数 500 人超

- ・延べボランティア参加者数 2016年度年間約 350人
- ・ほびーぐみ（サポートセンターのユースリーダー）
- ・高校生を中心に 20人の自主グループ 清掃活動、ラジオ番組出演などを中心に活動

◇現役社会人のボランティア促進

現役社会人が仕事上のスキルを使ってボランティアを行うプロボノ事業を本格稼働しました。2016年度は1団体のNPOを5人のプロボノワーカーが支援しました。また、Onedayプロボノも実施し、2団体のNPOに対し7人のプロボノワーカーが参加しました。

◇シニアの市民活動参加、ボランティア育成

市との協働「生涯現役プロジェクト」や「ひくてあまた月間」を設け、50団体との協力のもと、シニアが市民活動や地域活動に取り組むきっかけとなる企画を展開しました。

◇サポートセンターの支援ボランティア

サポートセンターの企画中心に利用者やイベントのサポートを行うボランティア

- ・4Sクラブ
サポートセンター主催事業の企画・運営ボランティア
- ・情報化支援ネットワーク
パソコン教室の情報化支援ボランティア3団体
- ・リサイクル協力 他
資源回収、仕分け等への協力

■活動の「場」創出

市民団体、ボランティアの支援は単に施設提供や情報提供という支援だけでなく、市民団体の活動やアピールの「場」、資金獲得の「場」、ボランティアとしての活躍の「場」を自ら生み出す努力を続けています。

◇2016年度の実績

- ・県立保健福祉大学のボランティア市民活動論で市内中間支援団体紹介、活動PR（4月・5団体、7月・4団体）
- ・関東学院大学での夏の市民活動・ボランティア体験参加PR（7月・4団体）
- ・神奈川歯科大学 市民感謝 day「ジャカラランダフェスティバル」の企画、参加20団体をアレンジ
- ・のたろんフェア（2月）約80団体の活動発表の場
- ・こたろんフェア（市内地域作業所5団体）実施
- ・チャイルドファクトリー<於ショッパーズプラザ横須賀>（子育て支援を主とする7団

体)の無料工作教室の実施

- ・夏休み!おやこ体験ひろば<於ショッピングプラザ横須賀>(4団体)実施
- ・夏の市民活動ボランティア体験の実施(35団体)
- ・生涯現役フォーラム(11月)に約25団体の発表の場創出
 - 〃の前後2ヶ月『ひくてあまた月間』(協力企画として市民団体が約50企画実施)
- ・よこすかカレーフェスティバル(横須賀市観光企画課)に出店(ボランティア派遣延べ150名)
- ・よこすかYYのりものフェスタ(横須賀市観光協会)に出店(ボランティア派遣延べ90名)
- ・肢体不自由児者運動会(横須賀市障害福祉課)ボランティア派遣19名
- ・赤い羽根共同募金(横須賀市社会福祉協議会)ボランティア派遣18名
- ・わんぱくフェスティバル(わんぱくフェスティバル実行委員会)ボランティア派遣5名
- ・よこすかキッズフェスティバル(ヨコスカダウタウンクラブ)ボランティア派遣11名

■NPOの組織強化支援

任意団体NPO及びNPO法人が市民社会で大きな柱となることがよりよい社会の方向性であると考え、活躍の場が広がるよう財務、広報、法務その基盤強化につながる支援を行っています。

◇2016年度の実績

- ・NPOのための法務・税務他なんでも無料相談会開催(生涯現役フォーラム内)
- ・高度な相談(財務、法務他)の相談にも対応
- ・法人立ち上げ支援(相談業務 数件)
- ・他団体とNPO法学習会の共催実施(9/25, 10/9)
- ・補助金、助成金情報の発信
- ・クラウドファンディング研修に職員派遣
- ・寄付文化の普及啓発活動
- ・ボランティアポイント制度を市から委託され実施
- ・プロボノによる基盤強化支援
- ・「伝えるコツセミナー」実施

■地域課題、社会課題への対応

市民活動団体、NPOの役割の一つは地域課題、社会課題への対応にあります。さらには課題に対する政策提言や弱者権利擁護の提案(アドボカシー)も重要な役割です。

サポートセンターでは地域のステークホルダーと一緒に多くの市民活動団体、NPO等を巻き込んで地域課題、社会課題にも対応してきました。

◇2016年度実績

- ①生涯現役社会の実現に向けての対応（生涯現役フォーラム、ひくてあまた月間など）
- ②多様な主体の連携による地域の活性化（企業×NPO×大学パートナーシップ事業など）
- ③子どもの健全育成（児童養護施設支援など）
- ④大学と地域を結ぶ架け橋プロジェクト
をテーマに活動しました。

さらにはまだ実績にはなりませんが、

- ⑤貧困問題などにも関わる協議への参加（フードバンク関連）
- ⑥地域コミュニティでの高齢化社会対策（助け合い組織の市全域への展開）
への企画提案の準備も始まりました。

※内容については法人独自事業（別途財源を得ての活動）等と重なるので割愛します。

2. 自主事業

サポートセンターの自主事業は、指定管理者がサポートセンターの目的に合致した事業を独自の財源で行う事業されています。以下の自主事業を行いました。

- ①大型プリンター設置
- ②中ロッカーの設置、一時預かりサービス
- ③コピー用紙、消耗品販売
- ④パソコン講座
- ⑤法人所有および寄付による備品貸し出し

3. 法人独自事業

法人独自事業とは、NPO法人YMCAコミュニティサポートが、その使命に基づき指定管理業務以外に行政から委託を受けて行う事業、補助金・助成金を得て行う事業、および法人の独自判断で行う事業です。

内容的にはサポートセンター事業の⑤「市民公益活動促進事業の実施」と重なり合う部分もありますが、財源を別途得た上で行う事業はこちらに挙げています。

■委託事業

- ◇ボランティアポイント制度実施

■補助金・助成金

◇児童虐待防止、児童養護施設支援＝ハッピーのたろん事業（大阪コミュニティ財団より）
2012年に横須賀で100人実行委員会を結成して行われた「朗読劇ハッピーバースデー」からの流れで児童虐待防止と児童養護施設の支援事業を行った。

- ・「養護施設しらかば子どもの家」に学生ボランティアを派遣 2016年度18名
- ・神奈川県立保健福祉大学 新保教授をお招きして、学習会をおこなった。学習会と同時に、市内で活動する子ども支援団体の交流会をおこない、情報交換とネットワーク構築支援をおこなった。
- ・市の児童相談所と連携してポスター等資料展示会を行った。
- ・オレンジリボンへの協力

◇プロボノ促進事業（横須賀市市民協働推進補助金より）

◇企業×NPO×大学パートナーシップミーティング in 横須賀三浦 開催（神奈川県より）

◇生涯現役フォーラム「生きがいづくり講演会」（市民協働補助金より）

■その他

◇震災支援事業（東日本大震災、熊本大地震）

震災から年数がたちその継続的な支援活動が問われている。登録団体や地域と継続的な支援を続ける。以下のイベント上で東日本、熊本市内の地域作業所の物品販売や東日本支援展示、講演、募金活動を行った。

- ・こたろんフェア（5月）での東日本地域作業所支援の物品販売実施
- ・のたろんフェア（2月）で熊本市内地域作業所製品の物品販売、及び募金活動
- ・のたろんフェア（2月）東日本大震災、講演（ミニ体験コーナー内）実施
- ・のたろんフェア（2月）東日本大震災の横須賀避難者（65世帯）へ招待状を発送、情報発信（4世帯来場）

◇YMCA 関連

- ・日本、世界のYMCAと協力しての活動に参加
- ・三浦半島および広域での市民活動促進に協力